

# ボツリヌス療法による 脳卒中後の痙縮治療のご案内



脳卒中の後遺症による身体機能障害の主な障害の一つに「痙縮(けいしゆく)」という症状があります。

「痙縮」とは、筋肉が緊張しすぎてしまう状態で、手の指が握ったまま開きにくい、肘が曲がる、足先が足の裏側の方に曲がってしまうなどの症状がみられます。

「痙縮」による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まって関節の運動が制限され、日常生活に支障が生じてしまいます。また「痙縮」がリハビリテーションの障害となることもあります。

現在、痙縮の治療には、内服薬、神経ブロック療法、外科的療法、ボツリヌス療法などがありますが、患者さんの病態など考慮して、これらの治療法とリハビリテーションを組み合わせで行われています。

「ボツリヌス療法による脳卒中後の痙縮治療」をご希望の患者さんは、ボツリヌス療法の適応の有無を確認させていただきます。なお受診予約については、下記までお問い合わせ下さい。

## 外来診察について

### ご予約

075-671-2351 (代)

※完全予約制

※外来診察にてボツリヌス療法の適応の有無を確認させていただきます。

※紹介状・採血結果(1ヶ月以内のもの)・画像等を持参下さい。

※適応の場合、後日入院日を連絡させていただきます。